

3 ビジョンの基本コンセプトと7つのビジョンプロジェクト

那須塩原駅周辺の現状や課題、報告書の中で示された方向性、市民懇談会における検討やアンケート調査の結果などを踏まえ、ビジョンの基本コンセプトを次のとおり定めます。

〈基本コンセプト〉

住む人・来る人が共に拓き、育む栃木県北の拠点

このコンセプトの言葉には、次のような願いや想い、意味を込めました。

- I <<住む人・来る人が共に>>
「今、那須塩原市に住んでいる人も、観光や仕事など何かをきっかけに那須塩原駅に降り立った人も、それぞれの立場や視点から一緒に那須塩原駅周辺のまちづくりに取り組んでいこう。」という願いや想いを込めました。
- II <<拓く>>
那須塩原の大切な歴史である「開拓」の一文字であり、「新しく何かを始める・何かが新しく始まる」という意味、那須塩原らしさを込めました。
- III <<育む>>
(まちが)「成長していく」「(まちを)受け継いでいく」という意味を込めました。

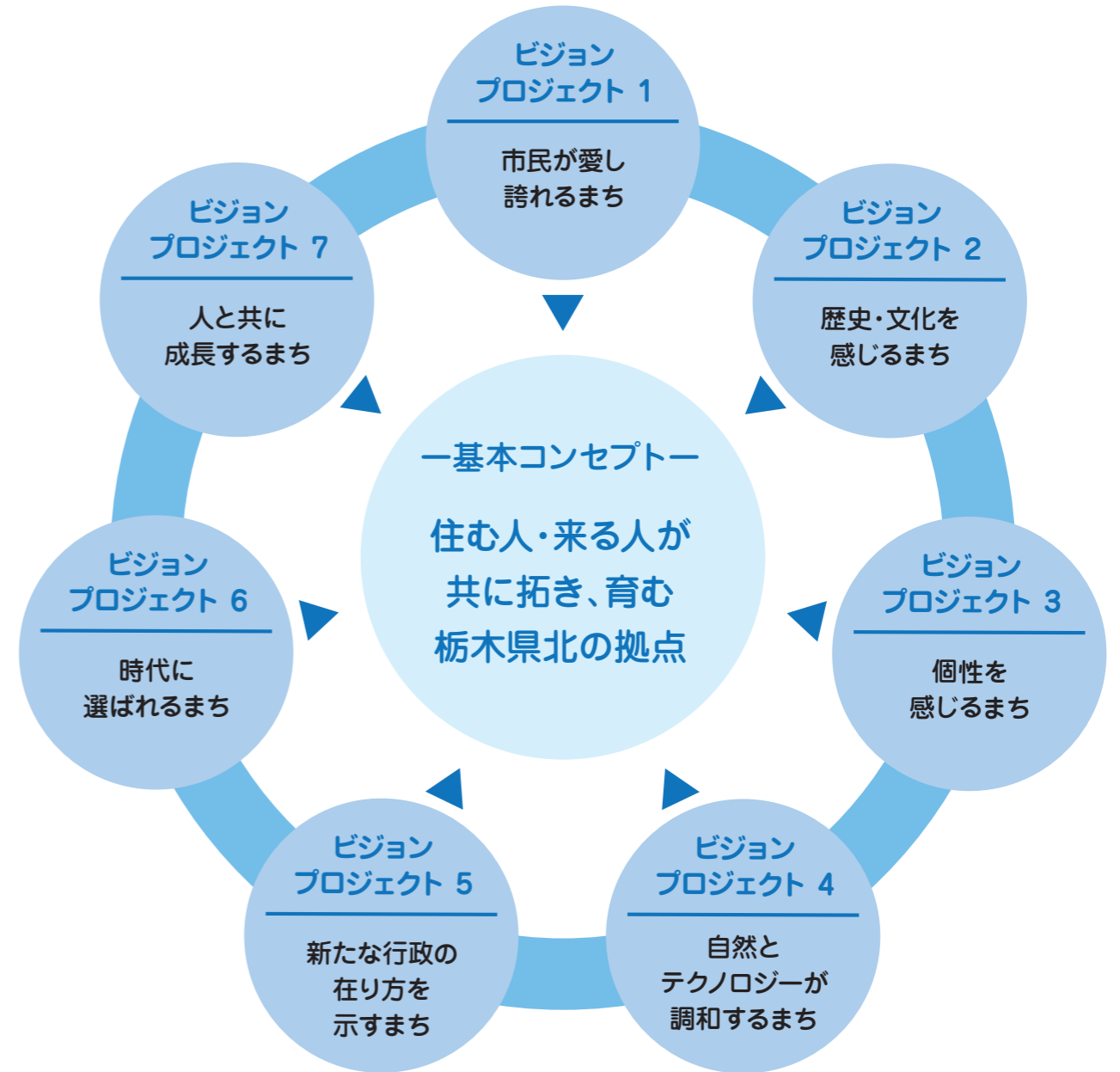
そして、このコンセプトの実現に向け7つのビジョンプロジェクトを掲げてまいります。

ビジョンプロジェクト1から6については、報告書において有識者からの提言として「外」からの視点で見出していた、これからの那須塩原駅周辺のまちづくりに必要な要素や考え方に、市民懇談会、市民アンケートやグループインタビューといった、これまで重ねてきた市民参画のプロセスを通じ、沢山の市民の皆様から頂いた「内」から見たときのまちづくりに対する夢や想いを加えて30年後の未来を描い

ていきます。
また、ビジョンプロジェクト7は、こうした市民参画のプロセスそのものを、これからの那須塩原駅周辺のまちづくりに必要な要素として、コンセプト実現に必要なプロジェクトの一つとして掲げることといたしました。

この基本コンセプトと7つのビジョンプロジェクトにより、30年後の未来のイメージを明らかにしていきます。

基本コンセプト及びビジョンプロジェクト構成図



プロジェクト① 市民が愛し誇れるまち

プロジェクトの目的

市民にとっても、那須塩原市を訪れた方にとっても、愛着が生まれ、「このまちに住んでみたい」「このまちに住み続けたい」と心から思える、次の世代に自信をもって残していける満足度の高いまちをつくる。



プロジェクトの施策の方向

都市環境の充実

移住・定住施策の強化

那須塩原市・栃木県北の玄関口としてのブランド化

プロジェクトで描く 30年後の 未来のイメージ

駅周辺の
住民が増える。

駅周辺を
目的地として
訪れる人も
増える。

那須塩原駅
周辺に
商業施設が
増える。

駅利用者の
回遊性が
高まる。

人々が、
日々の生活の中に
「活気や賑わい」を
感じる。

「安全や安心」
「癒しや安らぎ」
といった「暮らしやすさ」
「住み心地の良さ」を
感じる環境が
整備されている。

環境が整備される
ことにより、地域に対する
「愛着」や「誇り」が
より一層育まれる。

住民自ら
「まちへの愛着」
「まちの誇り」等
エリアに関する情報を
発信している。

那須塩原駅周辺の
対外的な認知度
(魅力度)のアップ、
那須塩原駅周辺を中心とした
移住・定住者の増加に
もつながっている。

ほかの人に
自慢したくなるような
まちになっている。



プロジェクトへの提言やアイデア

上質な高原リゾート、
東京からのアクセス等の魅力は
軽井沢と同様の
ポテンシャル！
駅を拠点に魅力を更に高め、
認知度を上げていく余地は
十分にある。

市のみならず、**那須野が原、
栃木県北地域全体の
玄関口**として、その地域を象徴する
ような駅を目指すべき。

まちづくりには
地域への愛着
が大切。

有識者会議
からの提言

駅を中心とした
市民の巻き込みと
外部からの
人の呼び込み
が重要。

観光客のみならず
地域の人も
那須全体を
楽しめる拠点
であることが必要。

まちづくりの
イメージの可視化と
まちづくりに対する
市民の内発性の
喚起が必要。

まちの賑わいは
駅周辺を中心に
作り上げるのが良い。

アンケート 調査等からの 意見

どの年代にも親しみや情が
湧くような場所であり、かつ
気軽に買い物などができる
ような、駅周辺だけでも満
足できる時間を作ることが
できるような場所になつた
ら良い。

市民参加の花壇を作り、季
節の花などを植えてゴミな
ど捨てることをためらうよ
うな、きれいな通りにしたら
と思います。

今ある自然や、安心安全は
維持しつつ、移動(公共交通
機関)や仕事充実した住
みやすいまちが良い。

まずは住民が住んでいて行
きたいお店やくつろげる場
所があり、自然と人が集まる
ようになって欲しい。地元住
民が住みやすい場所になっ
て欲しい。そうすれば移住
者の増加や観光客も足を
止めてくれる場所となる
と思う。

活気があって、でも安心で
安全で県外から来た人も周
辺に住んでる人もまた来た
いと思える場所だとい
かな。

みるひい1 クイズ

那須塩原駅から東京駅までの
新幹線の乗車時間は何分？

- ①40分 ②60分 ③80分

ヒント：ちなみに車だと高速道路を使うとおよそ
2時間だよ。

プロジェクト② 歴史・文化を感じるまち

プロジェクトの目的

開拓の歴史とそこに生まれた文化遺産を地域活性化のための貴重な地域資源として有効に活用するとともに、これまで受け継がれてきた歴史・文化に触れることにより、市民の心情面における一体感がより醸成されるまちをつくる。



プロジェクトの施策の方向

歴史や文化の継承(担い手づくり)

歴史・文化の共有に向けた教育、イベントの開催

文化財の積極的な活用

プロジェクトで描く 30年後の 未来のイメージ

市民を中心に歴史や文化を活用したイベントの開催。

駅を出発点として、文化財を巡る周遊交通機関の整備。

SNS等を通じて対外的にも那須塩原市の歴史や文化が広くPRされている。

市民の歴史や文化に対する関心や理解が深まる。

那須塩原市や那須野が原の開拓・発展の歴史、伝統や文化が担い手によりしっかり継承されている。

観光客だけでなく市民も歴史や文化が、日々の暮らしの中に「感じる」ことができる。

那須塩原市や那須野が原の開拓・発展の歴史、伝統や文化、それらを今に伝える地域に散りばめられた文化財などを誰でも日常的に「学ぶ」「知る」ことができる環境。



プロジェクトへの提言やアイデア

大切に語り継がれる
那須野が原の
開拓の歴史は、
まさに地域の
アイデンティティ

有識者会議
からの提言

市町村合併の
背景も踏まえ、
開拓の歴史などを
テーマとしたイベント
を駅周辺で開催しては?

皇族が利用する駅を
有するエリアとして、まちなみには
それにふさわしい
風格も必要。

日本遺産にも
認定された
この歴史を
まちづくりに積極的に
活かしていく必要がある。

アンケート 調査等からの 意見

歴史や文化のイメージがもっとあるといいなと思います。

歴史や地域の特色を生かし、大都市には真似のできない、特にソフト面でのきめ細やかな居心地の良さを追求して頂きたいと思います。

皇室が訪れる玄関口でもあるので、品格のある景観であって欲しい。皇室だけでなく有名な著名人も利用されている事が有ると思いますので、県北の良さを感じられるエリアであると情報発信(県外の方々にPR)。

物産展を含め、飲食店、カフェ、ショッピングアーケードなど、駅を利用する人だけでなく地域の人たちも“行ってみたい”があるまちづくり。子供達に歴史博物館(那須にちなんだもの)があっても面白いではないかと思います。

みるひい クイズ2

旧青木家那須別邸はどこの国の特徴が見られるでしょう?

- ①アメリカ ②イギリス ③ドイツ

ヒント:青木周蔵の妻エリザベートはドイツ貴族の令嬢です。

プロジェクト③ 個性を感じるまち

プロジェクトの目的

那須塩原駅から見える那須連山の眺望、星が輝く澄んだ夜空等を通じて、那須塩原市や那須地域が持つ特有の魅力を感じることができるとともに、「観光」等の拠点として那須地域全体、栃木県北全体の魅力も感じることができるまちをつくる。



プロジェクトの施策の方向

那須塩原市の魅力の再確認と付加価値

景観の維持・保全及び積極的な活用

二次交通網の充実・強化

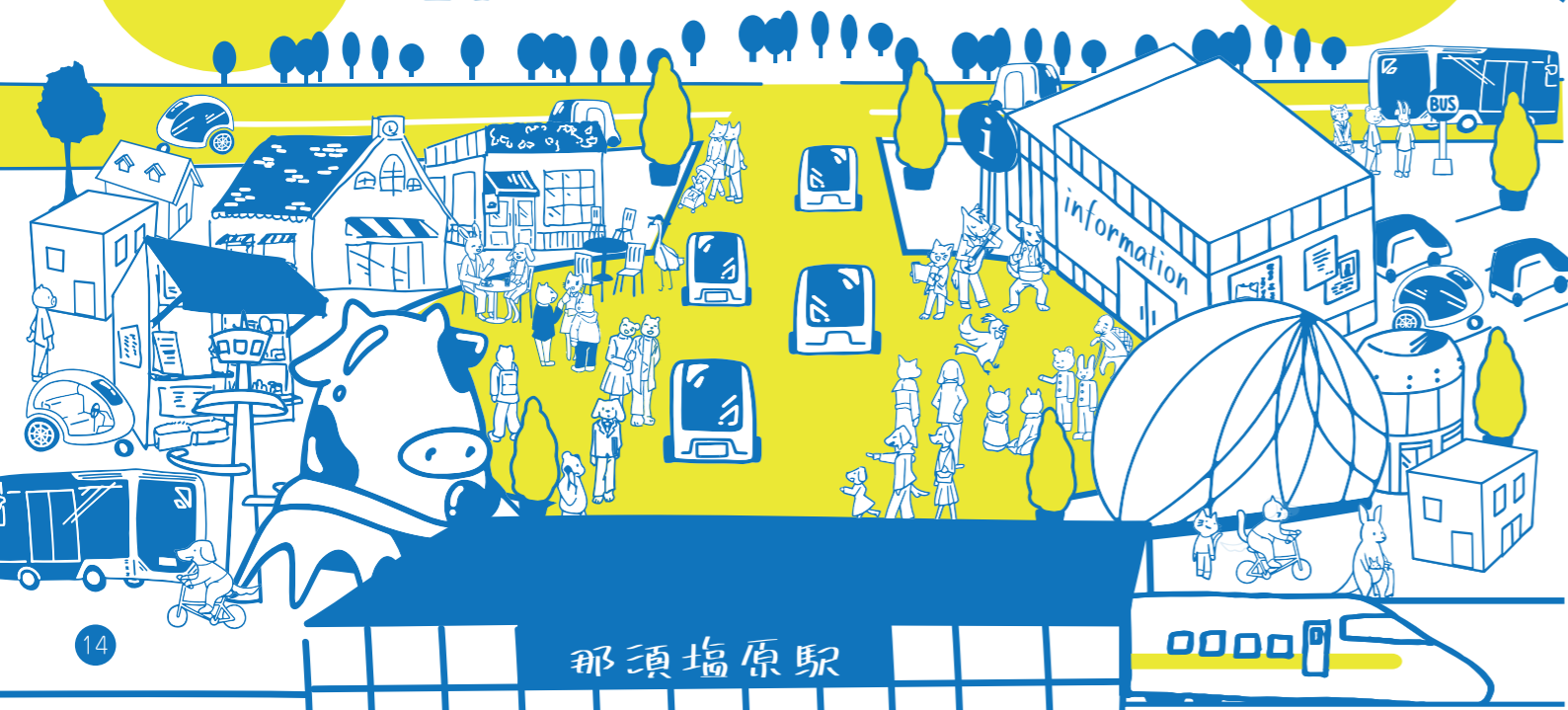
プロジェクトで描く 30年後の 未来のイメージ

駅前には那須塩原市や那須エリアの観光地、特産物等をインフォメーションする施設等の整備。

駅を降りた瞬間から「那須塩原らしさ」「那須らしさ」を感じられる空間に。

那須塩原駅を降りると、本市の「らしさ」をイメージさせるモニュメント(人工物)を設置。

那須連山の山並み、星が瞬く澄んだ夜空等の風景(自然物)が訪れた人を出迎える。



プロジェクトへの提言やアイデア

有識者会議からの提言

駅を降りた後に広がる素晴らしいスカイラインと那須連山の景観をもっと活かすべき。

テクノロジーの進歩等による新たな交通環境の展開を想定し、鉄道利用者の拡充を図ることが必要。

豊かな自然の中に庁舎が顔を覗かせる駅前の在り方も良いのではないかと。

インバウンドの少なさが観光面における課題の一つ。

市内の主要観光地を上手く周遊するための二次交通の充実が重要。市内にとどまらず那須地域全体の観光の活性化にもつながる。

駅前全体に大掛かりな施設が必要というわけではなく、地域全体のことが分かる地域の魅力を凝縮した様々な要素が集まったパッチワーク型の施設があれば、駅前の雰囲気を変えることができる。

自然の景観はもちろん、街並みの景観も重要であり、そのためのコントロールも重要。

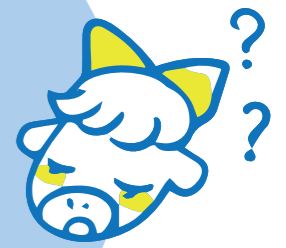
アンケート調査等からの意見

自然の豊かさは、那須塩原市の魅力なので、それを残しつつ、人の集まる施設もあると良い。

那須塩原駅前に那須のシンボルとしてふさわしい像等を建てて、那須をもっとアピールし観光客を呼び込めば、今まで以上に活気が出て経済も発展すると思います。

那須の特性を持つ県北観光の拠点にふさわしく、地元民も含め観光客が駅前周辺を快適に散策、滞留しやすい魅力的な街づくり、環境作りが重要。

大都市の真似事をして、追いつくわけではなく意味がない。利便性(新幹線)+景観(自然を生かした、おしゃれな街並み)+人との交流を軸に、新しい発展の形を構築できると良い。



みるひいクイズ3

那須塩原市の文化財の件数は?

- ①17件 ②78件 ③178件

ヒント: 建造物、絵画、彫刻、天然記念物などたくさんあります。

プロジェクト④ 自然とテクノロジーが調和するまち

プロジェクトの目的

自然とテクノロジーが調和し、先端技術を活用した新たな働き方・多様なライフスタイルが実践されるとともに、ひと本来の生活に必要な「癒し」が得られるまちをつくる。



プロジェクトの施策の方向

デジタル環境の整備・充実

サテライトオフィス・ワーケーションに係る施策の充実

観光施策との連携

プロジェクトで描く 30年後の 未来のイメージ

東京圏に本社を構える企業のサテライトオフィス等が駅周辺に定着している。

多様な働き方が実践されている。

サテライト
オフィス

東京などへのアクセスの優位性が広く認知される。

駅周辺のデジタル環境の整備・強化。



プロジェクトへの提言やアイデア

テクノロジーと自然(癒し)の相乗効果
により那須塩原のブランドカを高める。

世界のデジタル革命先進地が豊かな自然を背景に食や農につながる環境にあるという実態は、那須塩原市のポテンシャルに通じるものがある。

先端技術の積極的な活用を図り、多くの人々が集まる機会やきっかけを生み出し、まちそのものに活気を与える。

テクノロジーの追及は人間にとってストレスの問題にもつながる。

東京圏までのアクセスの良さを活かし、ワーケーション(ワーク×バケーション)等多様な働き方を実現するスマートタウンの拠点としての整備なども考えられる。

デジタルを活用し、魅力をより広範囲に届け、その効果を計測して機能させるサイクルが大切。

ターゲットを明確にし、ここに住みたいと思ってくれる人々を増やす事が、今後の更なる持続的な発展につながる。

有識者会議からの提言

アンケート調査等からの意見

昨今のリモートワーク等の推進・一極集中見直しの流れの中で、少し足を延ばせば山があり大都会への距離も程良いこの地域は、人が働き生活する基盤となれる土地だと思う。

新型コロナウイルス感染症によって生活や仕事のスタイルが一変してしまいました。この変化に取り残されることなく、サテライトオフィス、ワーケーションなどを意識したまちづくり企画や急速に脚光を浴びているデジタル関連企業の積極的な誘致など安定した経済基盤の構築についてもまちづくりビジョンに反映して欲しい。

自然とテクノロジーが融合したまちづくりを行って下さい。

分都やワーケーションをコンセプトに計画されると良いと思う。現在、自然豊かな環境があり、それを充分活用できると思う。その玄関口としてのまちづくりが必要と考える。

みるひいクイズ4

塩原温泉は「温泉の宝石箱」と呼ばれています。さて、何色の温泉がある?
①5色 ②6色 ③7色
ヒント:虹みたい!

プロジェクト⑤ 新たな行政の在り方を示すまち

プロジェクトの目的

新たな時代に相応しい行政機能を有し、公共サービスの効率性や利便性の向上、災害対応力の強化を図るとともに、那須塩原市、栃木県北の玄関口としての象徴・ランドマークとして、人と人とのつながりを創り、そこから新たな価値や魅力が生まれるまちをつくる。



プロジェクトの施策の方向

新庁舎及び駅前空間の整備

新庁舎周辺の道路網・インフラ環境の整備

民間活力の導入

プロジェクトで描く

30年後の 未来のイメージ

庁舎を核として、周辺エリアの道路網等のインフラストラクチャーの整備等、駅周辺のまちづくりが進む。

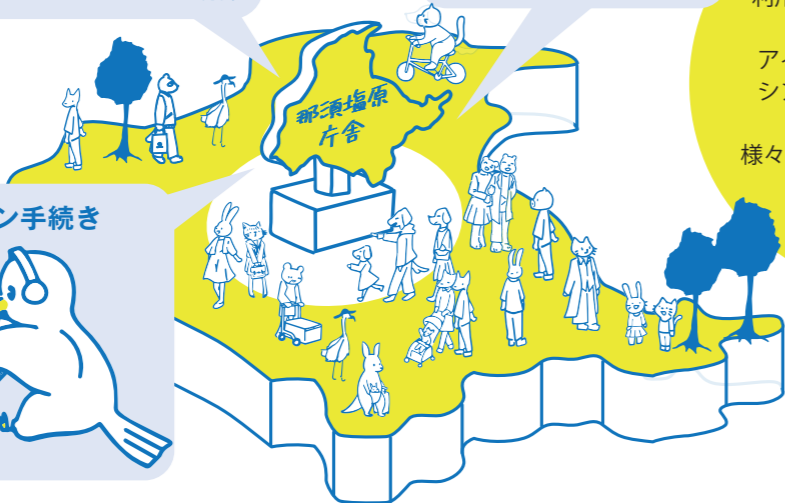
那須塩原駅周辺における人々の回遊性も高まり、駅周辺における新たな人の動きが生まれる。

更なる「賑わい」や「魅力」の創出、人や事業者の流入、土地利用の高度化等、まち(エリア)全体の活性化が図られている。

市内外からのアクセス性の向上、駅周辺への店舗等の増加。



オンライン手続き



新たな庁舎は、「デジタル化の推進」「新たなリスク管理」等、時代の潮流を見据えた機能を備える。

本市のランドマーク施設としての「那須塩原市らしさ」や県北の玄関口に構える庁舎として「那須エリア」を感じる事ができる空間を有している。

庁舎そのものの利用価値・存在意義が高まり、市民にとってのアイデンティティを備えた、シンボリックな建物として、行政手続きだけでなく様々な利用目的で市民が訪れる場所となっている。

有識者会議 からの提言

新庁舎は環境に配慮したオフィスとして率先して先端技術を活用し、駅周辺のまちづくりにおける、**景観形成において先導的な役割**を果たすことが期待される。

庁舎の機能は、行政手続の将来予測を踏まえ、**長期的な視点**で検討する必要がある。

庁舎の建物の在り方も、時代の様々な変化に対応できるように、**柔軟性を持った、フレキシブルなデザイン**であっても良いのではないかと。

市役所は市民が集まる場所であり、**コミュニティ形成の強化**に資する機能も必要。

官民連携(PPP)では、**ハード整備だけではなくソフト面**での連携も大切。

人と人が交流することで新たな価値を生み出す、**市民が集まりやすい**オープンな場所であることが必要。

庁舎には核となるようなものを残しつつ、**機能を分散**するとともに、**自然**を残していくという在り方も考えられる。

庁舎は市の象徴。文化・歴史やアイデンティティを感じられるようなものであるべき。

駅には**商業施設的なものを集積**し、**庁舎は人と人の交流の場**としての役割を担うものとし、全体の景観の中で一体的に繋がっているイメージが良いのではないかと。

市民活動の結節点としての役割も重要。人の往来を生み出すためには、従来の普通の「箱」ではなく、**様々な要素が複合化**したものであることが考えられる。

アンケート 調査等からの 意見

駅周辺に全てを網羅する一極集中ではなく、行政機関を中心に、ここから色々な情報等を発信する「発信基地」(コールセンター的)とし、それ以外は、市全域がバランス良い配置(色々な施設、店など)を考えてもらいたい。

他県にて、家賃収入がある市役所があるとの事、事務所や店舗等、面白いと思う。高さ制限の件も含めて、又、外観よりも使いやすい市役所になるといいと思う。

みるひい クイズ5

巻狩まつりのモチーフとなった「那須野巻狩」とはいつの時代にあった?

- ①平安時代 ②鎌倉時代 ③江戸時代

ヒント:1193年と伝えられています。

プロジェクト⑥ 時代に選ばれるまち

プロジェクトの目的

首都機能の地方分散、国のバックアップ機能の受け皿の一候補地など、より大局的な見地から、栃木県北地域など広域的な拠点となるまちをつくる。



プロジェクトの施策の方向

首都機能の地方分散等に向けた機運の醸成及び受け皿となる魅力の創出

広域圏における道路網の整備等、自治体間の連携強化
持続可能性の追求、環境政策等を通じた地域課題の解決

プロジェクトで描く 30年後の 未来のイメージ

「首都圏とのアクセスの容易性」「災害リスクに対する高い安全性」といった那須塩原市が有する地域の優位性などから、市内への首都機能の一部移転が実現。

玄関口でもある那須塩原駅周辺を中心に、インフラストラクチャー等の整備とともに、気候変動への対策等、那須塩原市が全国に誇る取組を生かしたまちづくりが進んでいる。

本市を中心とする広域圏の連携強化や新たな広域圏の形成などが図られるとともに、圏域内のヒトやモノの交流・流通がより活発に行われるようになり、広域圏内における更なる一体感が創出されている。

首都機能の一部移転に伴う関係者の移住や定住が進み、人口減少に歯止めがかかるとともに、移転機関への通勤者により那須塩原駅の利用者数も増加し、それらをターゲットとした新たな「賑わい」や「活気」が駅周辺に生まれている。



プロジェクトへの提言やアイデア

交通の要衝として、那須塩原市のみならず、**栃木県北地域における交通網の拠点**（ハブエリア）としてのまちづくりが求められる。

自治体間の広域的な連携強化を進める那須塩原市にとって、**駅周辺はそれら広域圏の拠点たるに相応しい環境を整備**する必要がある。

気候変動対策等、那須塩原市が国や他の自治体に先駆けた取組を実践しており、こうした**環境政策を通じて地域課題を解決し、市民が安心して幸せに暮らせる持続可能なまちの構築**を見据える必要がある。

首都機能の東京一極集中のリスクが顕在化する中、本市は「**災害に対する安全性**」また「**東京圏へのアクセスの容易性**」、また「**国会等移転先の候補地とされた過去の経緯**」等を有している。

中央省庁をはじめとする**首都機能の地方分散の受け皿**、バックアップ地としての役割を果たすポテンシャルを秘めている。

有識者会議からの提言

アンケート調査等からの意見

観光を考えると那須町との協力の上で進める事も必要。

中央省庁を誘致して欲しい。一つでも誘致されれば様相は一変するだろう。

ゼロカーボンシティへの取組を、行政だけではなく、アートや、いろんな分野との協力や繋がり、市民にとっても責任ある行動を堅苦しくないイメージで広め、実践していけるような街になって欲しい。

今後の地球環境の変化（災害が多くなる等）やCO2ゼロ宣言など、他にない新しい視点でのまちづくりに対応できるエリアとして期待したい。そういう所には、人々は集まりコミュニティが築かれていくのでは。

那須塩原市は地球環境保全に貢献できる再生可能エネルギー施設やCO2を還元する豊かな自然環境を保有している、これをアピールするような施設が有っても良い。

みるひいクイズ6

那須塩原市はいつまでにCO2排出量実質ゼロを目指すことを宣言した？

①2030 ②2050 ③2100

ヒント：2020年10月には国も宣言しているよ！

プロジェクト⑦ 人と共に成長するまち



プロジェクトの目的

様々な市民参画等のプロセスを通じて得られた人財が、那須塩原駅周辺のまちづくりの担い手として継続的に関わるとともに、市民がまちづくりへの関心を失うことなく継続的に担い手として参画する環境を整え、より高い次元で市民など多様な担い手との協働が実践されるまちをつくる。

プロジェクトの施策の方向

市民参画プロセスへの理解の深化と機運の醸成

市民参画プロセスの仕組みづくりや担い手づくり

市民、自治会、NPO法人、事業者等多様な担い手との連携強化

プロジェクトで描く

30年後の未来のイメージ

市民だけではなく、自治会や市民団体、民間企業等まちづくりに関心のある様々な担い手が、那須塩原駅周辺のまちづくりに参画している。

まちづくりに関するネットワークが広がり、多種・多様な「知見」と「視点」でまちづくりが進められている。

民間活力の導入など、民間企業との連携によるまちづくりが積極的に行われるようになってきている。

市民の中に「市政への市民参画」の素地が根付き、まちづくりの担い手が継続的に生まれている。

まちづくりの多様な担い手により、『那須塩原市版まちづくりシンクタンク』が構築されている。



プロジェクトへの提言やアイデア

まちづくりへのニーズは人それぞれ
異なって見える
ニーズの共通点
などを見つけながら
進めることが大切

まちづくりに関心のある
多種・多様な人財や
担い手との出会い
により、まちづくりの手法等が広がる。

行政だけではなく、
様々な担い手と連携し、
まちづくりに対する想い
を出来る限りすくい、
生かしていくことが肝要である。

有識者会議
からの提言



アンケート 調査等からの 意見

多くの人が意見を言える場が欲しい。

まちづくりについて皆が話し合っ、身近な事を感じ楽しめたら良いかも。

都会の街並みを目指すのではなく、市民全体で考え、一体感のある街を作って欲しい。独自性があり活気があれば、人はたくさん来ると思っています。

まちづくりを担うのはこれから大人になる子どもたち。地区にある高校から代表を募り、そういった計画を定期的かつ、何年間にわたって行っていくのは大切(必要)だと思う。

発揮出来ていない魅力的な要素や人材がたくさんあると思うので、そういった人々が集い、市に貢献できる企画や機会をどんどん計画して頂きたいと思ひます。

若者の人材育成とアイデアを取り入れた環境作り。

もっと多くの人が意見を言えて、まちづくりに参加できる場、イベントがあればと思う。人と人との関わりがもっともっとできる施設などが欲しい。



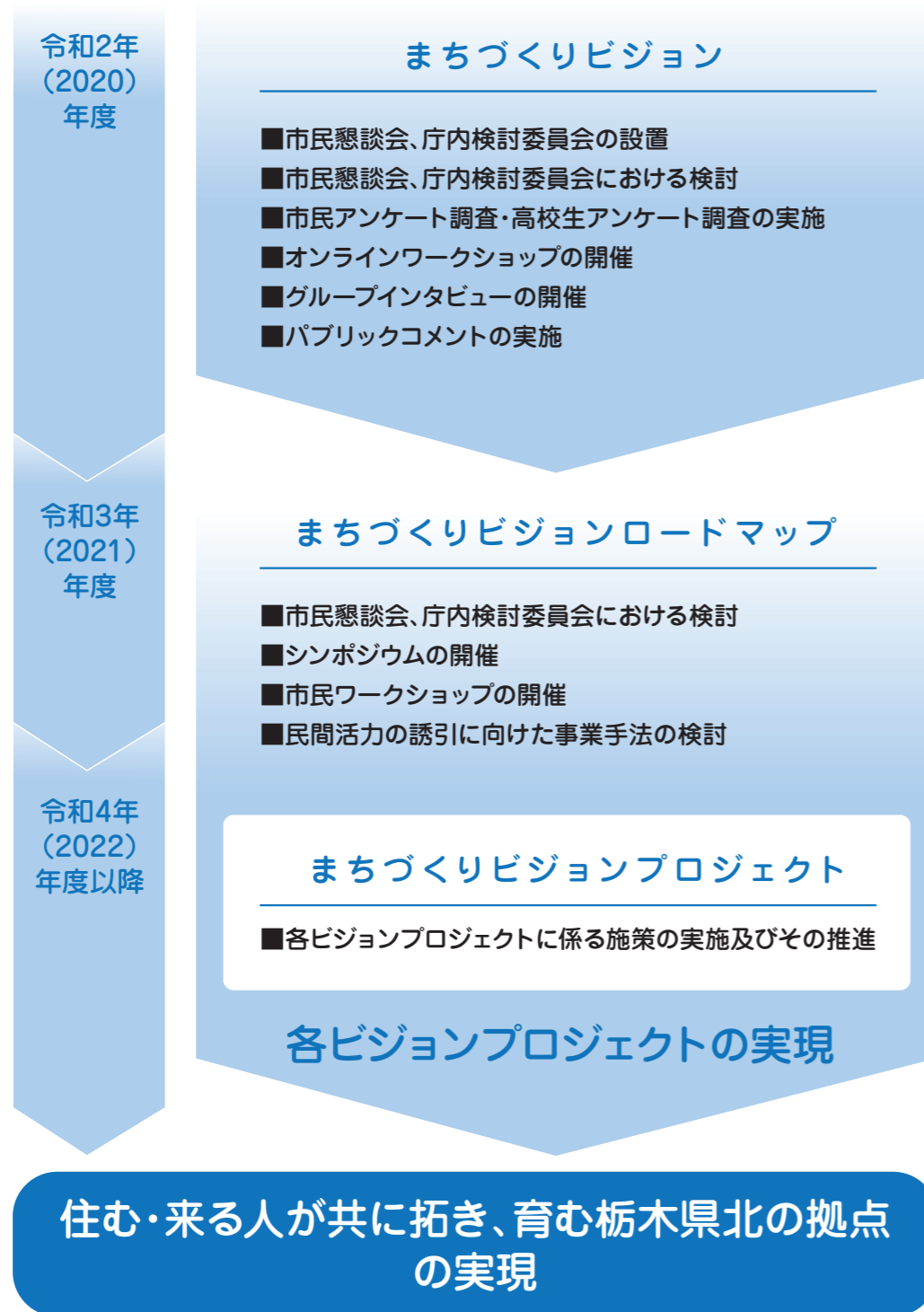
みるひい7 クイズ7

那須塩原市のブランドメッセージ「エールなすしおばら～夢が動き出すまち～」
ロゴマークはこの冊子の中に何個出てくるでしょうか?

①6個 ②14個 ③25個

5-1 スケジュール

那須塩原駅周辺まちづくりビジョンを具現化していくための行程を次のとおり示します。



5-2 ビジョンの具体化に向けた方向性

ビジョンを具体化するための主な方向性・方策を次のとおりとし、ビジョンに掲げた将来像の実現に向けて、着実に取り組んでいきます。

[1] 民間活力の積極的な導入及び導入を促す新たな魅力の創出

- PPP※(Public Private Partnership)等の活用を積極的に検討するとともに、駅周辺への民間事業者の進出支援の方策を検討する。
- 駅周辺の道路網等、都市基盤の整備を計画的に進め、駅周辺及び駅周辺エリアへのアクセス性の向上に努める。
- 景観等に配慮しつつ、建築物の高さ制限などに関し、その有効性や緩和の必要性等について検討する。

[2] 市民との協働によるまちづくりの更なる推進

- 地域の継続的な発展、まちづくりの維持のため、地元住民を中心とした市民との協働によるまちづくりを担う組織づくりを支援する。
- 継続的な協働のまちづくりの素地の醸成、担い手の創出に努める。

[3] 多種多様な事業手法の検討と積極的な活用

- 行政効率、財政負担の軽減などを念頭に、事業の計画・実施に当たっては様々な角度から事業手法を検討するとともに、多様な視点をもって財源の確保に努める。
- 所管が異なる複数の事業が同時に展開されるような場合、円滑な事業推進が図られるよう必要に応じて協議・調整の場を設ける。

※ PPP(Public Private Partnership)

官民連携。民間事業者の資金やノウハウを活用して社会資本を整備し、公共サービスの充実を進めていく手法。